

## 2008年夏休み友情のレポーター 東ティモール取材レポート

赤池 和佳奈（山梨県 / 当時 13 歳）

### 行程

8月22日(金)	12時55分 デイリ着、コモロ・ユースセンターにて英語・識字クラスを取材
8月23日(土)	午前 コモロ・ユースセンターにて絵画ワークショップ 午後 デイリ市郊外にあるキリスト像のビーチにてピクニック
8月24日(日)	午前 コモロ・ユースセンター、教会にて絵画ワークショップ 午後 メアリー、アプレックスの家にて家庭訪問取材
8月25日(月)	午前 コモロ・ユースセンターにて絵画ワークショップ 午後 在東ティモール日本国大使館表敬訪問
8月26日(火)	午前 国立博物館、タイスマーケット見学 お昼ごろ ビーチにてピクニック
8月27日(水)	午前 コモロ・ユースセンターにて絵画展示会準備 午後 展示会(含セレモニー) スポーツ大会
8月28日(木)	午前 コモロ・ユースセンター、空港にてみんなとお別れ 13時35分 デイリ発

### 東ティモールという国

国名：東ティモール民主共和国 TIMOR-LESTE

面積：14,000 km<sup>2</sup>

人口：約 925,000 人 (2004 年)

首都：デイリ (Dili)

言語：テトゥン語及びポルトガル語

通貨：米ドル

### テトゥン語ミニ講座

ハウ・ニア・ナラン・	私の名前は	です
ボン・ディア	おはようございます	
ボン・タルデ	こんにちは	
ボン・ノイテ	こんばんは	
ディア・カライ？	元気ですか？	元気です
フウラ	きれい	

ハンエトゥ	ごはんを食べる
ビディセンサ	すみません
オウバネブイン	どこに行くの
ボニタ	かわいい
スコラ	学校
エンマ・バラ	たくさんの人
エムベイ	のむ
アン・ブロウ	のどがかわいた
タシィ	海
アネサン	同じ
エストウグ	勉強
マテネック	かしこい
ジュジュ	正直
オウ	あなた
ハウ	私
リアックリィウ	すごくいい！！
オブリガーダ	ありがとう

## 8月22日 取材初日

12時55分、東ティモールに到着した。

飛行機の中から見えた景色はとてもきれいだったが、飛行機を降りて見た景色もとてもきれいな景色だった。私の東ティモールの第一印象は、『自然が美しい所』であった。

空港を出るとユースセンタースタッフのジャシントさん、そしてユースセンターに通っていて、一緒にワークショップに参加するルイジアとアコリがお出迎えしてくれ、そこで東ティモールの伝統的な織り物であるタイスをかけてもらった。

車の中では私たちもルイジアやアコリも緊張していて、名前と年齢しか聞く事ができなかった。

ユースセンターに着くと、みんなが一列にならんでお出迎えしてくれた。

片言のテトゥン語で自己紹介。

『ハウ・ニア・ナラン・和佳奈（私の名前は和佳奈です）』

『ハウ・ニア・ティナン・サノルレイスイントウロウ（私は13歳です）』

でも、みんなすごく喜んでくれた。

その後、英語クラスに行った。今日の授業は午前中だけだったにも関わらず私たちのためにみんな残ってくれていた。

ここでは英語で自己紹介。

やっぱり英語も片言である。それでも私が『質問はありますか？』と聞くと、みんな

積極的に質問をしてくれた。

次は識字クラス。このクラスは小学校入学前の幼児が対象で、この日もそのくらいの子たちがいた。しかし、そこで先生に聞いた話は心につきささるものだった。このクラスには、小学生が一人、中学生が3人いる。その小学生の子は、本当は13歳で、普通なら中学生のはず。数年前まで読み書きがほとんどできなく、学校にも通っていなかったそうだ。しかし、センターや非公式の学校へ行きがंबったため、今年、公式の学校の6年生のクラスに入れたという。きっと私だったら自分よりすごく小さい子たちと勉強するのはいやになって、その場を逃げ出したくなってしまいうだろう。その子に会うことはできなかったが、その子の心の強さを日本の人々に伝えたいと思った。

8月23日 二日目

### 絵画ワークショップ

絵画ワークショップ初日。朝から緊張しながらも楽しみにしていた。

ドミニクさんから説明を受け、一人で絵を描こうとしていた私にジュリア（13歳）が『ワカナ、ワカナ！』と笑顔で声をかけてくれた。それから、昨日、空港に来てくれたルイジア（14歳）、ニィナ（15歳）、メアリー（16歳）と一緒に絵を描いた。みんなふだんはあまり絵を描くことはないというが、とても上手だった。

絵を描く合い間に日本語とテトゥン語を教えあったりしながらみんなとおしゃべり。英語と日本語とテトゥン語が混じりあっていた。趣味を聞いた。するとニィナが『Study』と答えた。私の周りを見ると趣味を『勉強』という人はいないと思うので驚いた。あまり勉強できない時代があったからか、勉強が楽しくてたまらないようだ。おしゃべりの中で私の好きな花、ひまわりと好きな理由を紹介した。ひまわりの絵を描くとみんな『フウラ（きれい）』と言ってくれた。

### ピクニック

キリスト像が大きく見えるビーチに行き、みんなでピクニック。

お弁当を食べた後、またみんなで絵を描いた。私はキリスト像を描くのに苦せん。しかし、みんなここでもすごく上手だった。

絵を描いた後もまたおしゃべり。

『学校でどんな勉強しているの？』

と聞かれたので、学校の教科を教えた。すると、音楽の授業をみんなすごくうらやましがっていた。後でスタッフの方から聞いた話によると、教師不足などの関係もあり、東ティモールでは実技教科は軽視されているようだ。だから美術の授業もない。なので、みんな普段絵を描くことはないようだ。その他にも学校の話などで大盛り上がりだった。

8月24日 三日目

### 絵画ワークショップ

この日は、まず教会に行ってお絵描きをした。

細かい所が多く難しい。でもやっぱりみんなはとても上手。なぜだろう？

教会でお絵描き終わるとセンターに戻り、今まで描いた絵に色をつける。みんな絵の具を使うのは今回が初めて。そのせいか、最初は色が厚ぼったかったが、私たちが絵の具の使い方を教えるとすぐにみんな慣れ、使いこなしていた。なぜかみんな鮮やかな色を使う子が多い。

私たちが絵を描いていると小さい子たちが集まって来た。どうやら小さい子たちも絵の具を使いたくてしょうがないようだ。そこで私のメモ帳を一枚あげて、小さい子たちにも絵を描いてもらうことにした。鮮やかな色ばかり使う子、全ての色を使おうとする子、青や緑っぽい色ばかり使う子。一人ひとり個性があふれる絵が出来あがった。

### 家庭訪問（メアリー）

最初に行ったのは仲良くなったメアリーの家。彼女はとても明るく、いつも私に話しかけてくれる。また、とても勉強熱心で移動に使ったマイクロレットの中など、時間があればいつでも勉強をしている。彼女の家はコンクリートのようものでできていた。家に着くと、お母さんが出てきてくれた。

メアリーとお母さんに話を聞いた。まず最初に聞いたのは何人家族か。するとお母さんは、

『6人家族で5人子どもがいます』と、答えてくれた。

なぜお父さんがいないかは聞くことができなかった。

2006年の騒乱の時の事を聞くと、

『車が燃やされたり、家に石を投げこまれて良くない状況だった』と答えてくれた。

いつも笑顔で明るいメアリーにそんな過去があったことがショックであった。

お母さんはメアリーに『もっと勉強してほしい』と言っていた。そしてメアリーもそれに答えるように『もっと勉強して海外の学校へ行きたい』と言っていた。

### 家庭訪問（アプレックス）

次に行ったのはアプレックスの家。

しかし彼が『ここが僕の家』そう言った場所には何も無い。

状況が理解できなく、地下に家があると思ってしまった。

彼から話を聞くと、2006年の騒乱の際に彼の家は近所の人によって壊されてしまったそうだ。彼にその時の様子を聞くと、

『とても悲しかった。家を燃やされてしまったから。みんなで山のほうへ逃げたんだ』と言っていた。そして今はお母さんと暮らしていて、他の家族に会いたいか聞いた。

『会いたくない』返ってきたのはその一言だけであった。しかしその『会いたくない』

にはどれだけの複雑な思いが入っていたのだろう。そう考えるとそれ以上、何も聞けなくなってしまった。

メアリーもアプレックスにもそんなつらい過去があったなんて信じられなかった。来る前に本などで 2006 年の騒乱で大きな被害がでた事は知っていた。しかし仲良くなり、センターではとても明るい彼らからそのような事実を聞くのはショックだった。と同時に彼らの心の強さを感じ、いつも小さな事ですぐ投げ出そうとする自分がとても小さく見えた。

## 8月25日 四日目

### 絵画ワークショップ

この日は最初にマーケットに行き、絵を描いた。

私は一枚目を描き終わったところで少し具合が悪くなり、センターに戻ってしまったが、みんな市場の好きな所を思い思いに画用紙に描いていた。

みんながセンターに戻って来ると私の体調も復活。学校みんなが集めてくれた画材道具をプレゼント。みんなすごく喜んでくれた。集めてくれた学校のみんなもありがとう！

### 日本大使館

午後からは大使館に行き、林さん、山口さん、しも平さんにお話を聞いた。最初に東ティモールの良い所を聞くと、やっぱり私と同じように『自然がきれい』と、どの方もおっしゃっていた。そして、東ティモールがよくなるために必要な事を聞くと、『もっと人を育てる』と答えていただいた事が多かった。

同じ『日本人』という視点の長く住んでいる方にお話を聞くことができ、とても勉強になった。

## 8月26日 五日目

### 国立博物館

この日最初に行ったのは国立博物館。

東ティモールの歴史がまとめられていた。独立運動をしていた時の事が大きく取り上げられている。1978年～79年にかけてインドネシア軍に直接的にか間接的に殺された方が山が多い。これは町にいと危ないからといい、山に逃げて餓死してしまった人が多いからだそうだ。みんなも熱心に責任者の方の話を聞き、誰からともなくメモを取り始めた。東ティモールの歴史は本などで勉強していったつもりだったが、知らない事が多くとても勉強になった。

## ビーチ

いよいよみんな待ちに待ったビーチ。

男の子たちは着くと同時に海へ飛びこんで行った。一方、女の子たちはなぜかちょっと控え目。でも私はニィナと一緒に浅い所でヒトデなどを見つけて遊んでいた。ニィナは星が空から降って来て海に落ち、ヒトデになったという伝説を教えてくれた。私が魚を見つけ日本語で『いた！！いた！！』とさげぶと、みんなも『何、何？』という感じで『いた、いた！！』と言って私の方へ来てくれた。きれいなビーチで楽しいひと時を過ごした。とてもきれいな海だった。

8月27日 六日目

### 展示会準備

さあ、いよいよ展示会の日が来た。

朝から準備で大忙しの私たち。ちょっとした絵の仕上げをしたり、展示物を貼ったりしているうちに、だんだん会場が出来上がってきた。いよいよ・・・そんな思いが込み上げてきた。

会場も出来上がり、みんなが集まってきたらドミニクさんがみんなにインタビュー。後でスタッフの方に聞いた話だが、男の子たちの何人かは『大統領になりたい』、『首相になりたい』と言った子がいたそうだ。きっと自分たちでもっと東ティモールを良くしたい、という思いが強いのだろう。

その後、私も少しインタビューされた。その中で聞かれた事の 하나가『人生で一番大切な事』。私が一番大切だと思うのは、できる限り人とコミュニケーションを取る事、そして何より笑顔でいることだと思う。

### 展示会

さて、いよいよ展示会。

まず小さい子たちがダンスでご来場下さった方々をお出迎え。教育省の方、日本大使館の方、そして私たちにタイスをかけてくれた。教育省の方、一緒に絵を描いたジョエル、そして私でテープカットをさせて頂いた。思っていたよりたくさんの方が来ていただいた。みんな自分の描いた絵を来て下さった方々に紹介。私もたくさんの人に自分の絵を紹介した。東ティモールを描いた絵は紹介する前にどこか分かってもらえてうれしかった。途中から外でセレモニーも始まり会場は一層にぎやかになった。セレモニーの中で私は『Peace loving people』という歌を歌わせてもらった。大成功というわけではなかったが、一緒にステージに上がってくれたジュリアとメアリーのおかげで楽しむことができた。そしてみんなすごく拍手をしてくれた。

来て下さった方々が帰り、後片付けが終わるとみんなで記念さつえい。こういう時に男の子たちが盛り上がるのはどこの国でも同じだ。盛り上がれば盛り上がるほど『明日が来てほしくない』そう思ってしまう私であった。



## 8月28日 帰国の日

### ユースセンター

ユースセンターに着いてもやっぱりいつもの盛り上がりがない。みんな少し静かだ。いつもは早いのにかなり遅れて来る子もいた。やっぱりみんなさみしいんだね。周平さんの提案で一人ずつにネームカードを書いてプレゼントする事にした。

『I'll come back here.』そうメッセージに書いた。

カードを渡すとみんなとても喜んでくれた。

### 空港

ユースセンターを後にいよいよ空港へ行った。

車から降ろした荷物を男の子たちが持ってくれた。荷物を預けてから最後にみんなとお弁当を食べた。お弁当の内容は同じだったのに、みんなと食べれるお弁当がこれで最後だと思うとなんだか違う味に感じた。やっぱりお弁当を食べる時もいつもの盛り上がりは、ない。

### さようなら

もう本当に出発だ。東ティモールに居た7日間は長いようでとても短かった。なぜだろう。きっとみんなと楽しい時間を過ごせたからだろう。

ジュリア、ルイジア、ニィナ、メアリーの4人が私に英語で手紙をくれた。

ジュリアとルイジアに『またここに帰ってきてくれる?』と聞かれた。

『もちろん』私はそう答えた。

最後にお別れする時になってジュリアが自分の髪どめを私に一個くれた。空港のゲートに私たちが入ってもみんな手をふり続けてくれていた。10分くらいだったかな。いいや、もっと長かったと思う。メアリーが泣き出してしまった。『また会おう』、『必ず戻ってくるよ』そう言いながら私たちは空港の建て物へ入って行った。

### 笑顔と心の強さ

今回東ティモールに来て、一番最初に感じたのは笑顔の力。

絵画ワークショップの一番最初に私に声をかけてくれたジュリアもとても笑顔のすてきな女の子だった。ルイジアが空港に迎えにきてくれ、センターに向かう車の中でもしゃべる事ができなくてもほほ笑み合うだけで『何か』が感じられた。メアリーもニィナも初めて会った時から私に笑顔を向けてくれた。

言葉が分からなくても、笑顔があれば十分だなあって本気で思えた。でもメアリーとアプレックスの家に行ってショックだったのは笑顔の裏にもつらい過去があったという事。最初は信じられなかった。聞こうとしていた事も全て忘れてしまった。センターの中では知ることのできない事だった。でも同時に感じたのはくじけずに笑顔で頑張る彼らの強さ。

それは私にはないものであった。今回の旅でどれだけのものを得る事ができたのだろう。東ティモールみんな、オブリガーダ。

2008年 夏休み友情のレポーター 赤池 和佳奈